

2023 年度 施設関係者評価委員会 議事録

日時：2024（令和 6）年 2 月 27 日（月）14:00～15:00

評価委員出席者：赤澤淳子様（福山大学人間文化学部教授）

平木滋子様（瀬戸内不動産役員・国際ソロプチミスト福山会員）

青野篤子（社会福祉法人つくし会理事・嘱託アドバイザー）

園側出席者：理事長園長・副園長

場所：こどもえんつくし フォレスタ ダイニング・ホール

資料：こどもえんつくし教育・保育課程，評価シート（事前配布）

こどもえんつくし職員自己評価，こどもえんつくし・福山大学との連携について，
2023 年度広島県働きがい向上コンサルティング利用促進事業実施報告書別紙，ビジ
ネス情報 6 月 20 日号特集記事（社会連携）

<議題>

1. 委員長（議長）の選出

赤澤委員が選出され，議事に入った。議事録は青野が作成することになった。

2. 議事

(1) 委員の評価・質問と園側の説明

評価シートの項目について順不同に意見効果・質疑応答を行った。

2) ホームページについて

(委員より)

他の園と比較して，ファッションルであるが，やや見にくい点がある。

具体的には，

- ①ニュース・ブログなどで，同じ内容が重複している
- ②保育・教育の内容などワンクリックで見られない構造になっている
- ③入園案内はもっとシンプルでよい
- ④同じ写真が数か所に使われている
- ⑤園のアピールポイントである施設紹介がめだつように など。

(園側説明)

トップページに多くの内容を羅列しているので，スクロールしなくてはいけない。

他の園も参考に改善したい。

(委員より)

スケジュールの中にある「ゆとり保育」というのはどういったものか，園の「売り」
なのか？

(園側説明)

延長保育に入る前の自由に遊ぶ時間帯のこと。伝統的な「設定保育」の枠に縛られ
ないようにするという意味もある。

3) 園の IT 化

(委員より)

保育士の研修で DVD を見る、園児の情報教育、リテラシー教育を進めるために、

情報環境（視聴覚設備）の充実が必要ではないか。

（園側説明）

研修内容の検討も含めて必要なものは取り入れたい。園児の情報教育は幼保小接続の観点からも考えていきたい。

4) 職員の情操教育

（委員より）

上のこととも関連するが、職員の興味がある DVD 教材などを活用した研修も取り入れたらどうか。

（園側説明）

これまでの園内研修の反省も含めて、職員の希望を取り入れるようにしたい。

5) 職員の自己評価

（委員より）

15・22・23・28 など、提案すること、発信することへの苦手意識が伺われるが、実態はどうか？

（園側説明）

確かに、最近、お互いに遠慮して率直に発言することをためらう傾向が見られる。今年度の園内研修ではその点にもポイントをおいていた。

（委員より）

世代横断的な小グループで意見交換する機会があればよい。そのためにも、3) で述べたような DVD 教材などが役立つのでは？

（園側説明）

コンサルタントからは「心理的安全」を作り出すためのグループ活動も提案されており、来年度に向けて検討したい。

6) フォレストの活用

（委員より）

フォレストはどのように活用されているか？

（園側説明）

建築雑誌に掲載されるなど、マスコミや地域でも注目されている。年長のランチのためのダイニングとしては当初より活用、最近では職員の研修（ノンコンタクトタイム）、園・法人主催の行事やコンサートでも使われるようになった。しかし、コロナの影響もあり、現在は園内の参加者が主となっている。防災の面から備蓄庫の活用も進めている。

（委員より）

地域に開かれたイベントを企画するのはどうか。

（園側説明）

外部講師に定期的に来てもらい、親子のための料理教室などできるかもしれない。今後、食育にも力を入れていきたい。

(2) 社会連携・社会貢献－福山大学との連携について

1) 福山大学心理学科との連携事業：子ども遊び広場の共同運営

2023年度は4回しか実施できなかったが、来年度も深田先生・小池先生の協力も得ながら継続することが確認された。つくしとしても保育士を派遣し、どこでも保育の仕事ができる保育士を育てたい。

2) 社会連携研究推進センターでの事業について

鈴木理事長から打診があったので、何がふさわしいかを検討したい。一時預かりは難しい乳児のニーズが多いので西田助産師によるベビーマッサージなどを中心に企画を練っていききたい。

3. 報告

(1) 2023(令和5)年度広島県働きがい向上コンサルティング利用促進補助金事業(法人)

広島県に登録されているコンサル業者のワーキングエージェントによる従業員意識アンケート、分析・提案を受け、法人としての今後の計画を県に提出したことの報告があった。

(2) こどもえんつくしの利用定員の変更について

2024年度より、定員を223人から183名に減らす予定であるとの報告があった。